

石巻赤十字病院での研修報告



グループ E

授業前の知識

グループメンバーそれぞれ専門が異なるが、筆者は医工学専攻であり、いくつかの医療機器の仕組みや特徴・使われ方・医療機器制度やごく基礎的な医学・生物学の知識を持っていた。他メンバーでは医療制度に詳しい方や、薬剤師免許を持つ薬学に造詣の深い方もいた。

授業の目的

地域医療の現状を知ること、地域医療の現場のニーズを知ること、及びそれらの自分の研究や将来への活かし方を考えることを目的とした。

到達目標

地域医療とは何か、また、その現状を説明できる。地域医療や未来型医療の現状の課題点及び将来目指すべき姿を説明できるようになる。これらを目標として設定した。これらを講義や見学及び説明、ならびに各自の観察を通して達成する。

授業内容

様々な現場を見学し説明を受けること・また講義を受講することが主であった。見学した現場は医事課・放射線部・検査部（写真1）・免

震構造・救急センター・外科手術・NST 会議・内視鏡センター・病棟・乳腺カンファレンス（写真2）・透析室・薬剤部・リハビリ・南三陸病院。受けた講義は病院概要・地域連携・原子力研修・災害医療・透析・褥瘡・高齢者医療・食堂外科・南三陸の災害対応。最終日には各自10~15分程度の成果発表を行った。

NST 会議や乳腺カンファの見学では、様々な職種がそれぞれの専門性を持ち、相互に尊重し合いながら連携している様子が見学できた。救急センターでは、地域の中核病院としての責任を持ち、救急車の非常に高い受入率を保っていることがわかった。災害医療では事前訓練の重要性や災害時の情報収集の難しさをご講義いただいた。地域連携では病院の役割や医療圏における石巻赤十字病院の役割や他病院との連携、地域医療の目指すところなどを教えていただいた。高齢者医療の講義では高齢化に伴う医療の問題点・課題などをご講義いただいた。



写真1：検査部での見学



写真2：乳腺カンファレンス

研究や仕事などに活かせる点

「同じ概念でも場所によって意味が異なる」という事実気づけたのは、未来型医療創造という学際的な分野に携わるものとして意味があるものだったと考える。例えば、「手袋」について、手術室では素手よりも清潔であると考え一方、検査部では汚染されているものと考え清潔なものには触れてはいけないことになっている。機械系、特に機械工作では巻き込みの危険から作業中に手袋をつけてはいけないことが多い。このように同じもの・概念でも場所が変われば意味が異なる。これは手袋に限った話ではないので、あらゆるものについて、同じ意味合いで認識できるかを常に他の人と確認する必要がある。

また、病院を1週間じっくり、そして幅広く見ることで、医療現場の全体像をある程度把握できたため、自分のやっている研究がどう生きるのかのイメージを掴む基礎ができたと感じている。

影響を受けたこと

「生と死」「どう生きるか」について深く考えさせられた。医療の行く末としてどのようなものになるのが理想なのか、これは非常に難しい。ほとんど自分の意思を発現することができずに生きている方も多数おられた。「ただ生かす」ことは善なのか。人らしく生きて人らしく死ぬのも権利なのではないか。最期を自宅で迎えたいのにそれが実現できている割合は極めて低い。ただ技術を追求するだけでなく。「どう生きるか」を常に考えながら医療に携わっていく必要があると強く感じた。

災害に対する考え方も改まった。震災から10年近くが経ち、復興が進むとともに風化も進んでしまっている。一被災者である筆者も当時に比べて災害への意識が低下していると実感している。今回改めて災害対応についての講義を聞き、また、津波の映像を見ることを通して、震災の記憶を取り戻すとともに、日頃の備えの重要性を再確認することができた。

地域医療に関して、「医療より福祉」という言葉が非常に印象的であった。高度な医療云々の前に、まずは人々の最低限度の生活を支える福祉が不十分であることを実感させられた。我々は最先端や高度な技術を追い求めがちであるが、根本の部分から広く見てトータルで人々の生活を支えるソリューションを提供していく必要があると強く感じた。

来年度以降の改善点

一つのを深くみる時間、各自の興味に応じて見学先を決められる時間が増えるとなお良いと感じた。我々のグループでも、医療情報や診療報酬・医療事務に興味がある人、薬剤部に興味がある人、リハビリや救急部に興味がある人と興味は大きく分かれた。興味は知っているものに対して湧くという前提を踏まえればランダムな出合いを提供するという意味で定められたカリキュラムで様々な現場を見学することに大きな意義がある。しかし、見学箇所が多すぎて、どこでも一般的な説明を聞くだけで終わってしまったところが多い。できれば一日、せめて半日程度自由に見学先を決める時間があれば、一般的な説明・見学の枠を一つ超えた体験ができ、新たな気づきや学びが得られると感じた。

授業の限界

短期間での研修ということで、「広く見れば浅くなり、深く見れば狭くなる」のトレードオフが授業の限界ではないだろうか。前述のように、ある場所や人に張り付いて長時間観察することで見えてくる課題点は激増すると予想されるが、それを行うと他の診療科や現場を観察することは不可能になってくる。

まとめ

我々は未来型医療創造卓越大学院プログラムのバックキャスト研修として、石巻赤十字病院にて7/13~17の5日間研修を行った。病院内の様々な現場の見学及び講義の受講を通して地域医療の現状や課題、未来型医療の現状や課題を学び、発見した。